

研究という世界に旅立つ若手研究者の第一関門 「学会誌『査読』」をクリアするには？ —投稿者レスポンスの重要性に焦点を当てて—

「解決すべき論」から始まる社会福祉研究は、解決すべき社会問題を認識し、それを知識として取りまとめようとする研究者によって社会に発表される。より良い社会を目指して研究成果を発表するのは、研究者の使命であり、義務である。

研究者が研究成果を発表する上で考えられるルートは、大きく3つある。第一に、学術大会での発表、第二に、大学や研究所が発行する紀要への論文投稿、第三に、学術学会が発行する学会誌への論文投稿である。いずれにしても、研究者は研究成果の質を担保するために努めなければならない。その際に、「査読システム」が一つの選択肢として機能しているに違いない。しかしながら、査読システムに経験の乏しい若手研究者は、査読論文として投稿することを躊躇しており、投稿できたとしても査読結果を目にしたとたん、厳しい指摘内容で落ち込んでしまう事実がある。また、どのようにレスポンスすればよいのかすら分からず、諦めてしまうこともあるだろう。なお、母国を研究対象とした外国人留学生は、日本の学会誌に投稿した理由を指摘されることが少なくなく、レスポンスに困っている。

今回の第44回若手研究者・院生情報交換会では、以上の問題意識を踏まえて豊かな査読経験を有する研究者を招待し、若手研究者の「学会誌『査読』への向き合い方」について語ってもらう。また、文献研究・質的研究・量的研究などを方法論とする3名の若手研究者を招き、採択の鍵をにぎる投稿者レスポンスの重要性と対応方法を、具体的な事例を用いて語ってもらう。

▶ 日時：2019年1月26日(土) 14:30-17:40 (無料)

▶ 場所：同志社大学今出川キャンパス「良心館402」

14:30-14:40 <開会挨拶>

14:40-15:20 <基調講演> 小野達也(大阪府立大学人間社会システム科学研究科教授)

「学会誌の『査読』への向き合い方—若手・外国人の研究者・院生の視点も踏まえてプロフィール

博士(社会福祉学)。専門領域は地域福祉。近年は、対話的行為にもとづく地域福実践、増進型地域福祉に関心。2014年度より関西社会福祉学会の学会誌『関西社会福祉研究』の編集委員長。また地域福祉関連の研究誌の編集委員も務めている(日本地域福祉学会『日本の地域福祉』『地域福祉実践研究』、日本生命済生会『地域福祉研究』)

15:20-17:30 <報告>

「査読という対話をとおして論文が生まれるということ—歴史研究の立場から」

佐草智久(立命館大学大学院先端総合学術研究科博士後期課程
/日本学術振興会特別研究員D2)

「質的研究における投稿者レスポンスの重要性と対応方法」

鄭 熙聖(同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程)

「量的研究における投稿者レスポンスの重要性と対応方法」

高橋順一(同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程)

17:30-17:40 <総括>

*報告は各25分、質疑応答は40分を予定しています。

18:00~

<懇親会>

大学付近の会場で予定しております。
会費は、3500円(院生の方は1000円)程度

参加を希望される方は、懇親会の参加有無を含めて、下記までメールでお申し込みください。会場予約や資料作成等の準備の都合上、1月20日(日)までにご連絡頂けると幸いです。よろしくお願ひ致します。

参加申し込み・問い合わせ先:企画担当 同志社大学 姜民護 E-mail:gallmeagi@gmail.com